

基礎看護学

専門分野

(1年生用)

| 授業科目 | 看護学へようこそ | 講師 | 氏名 | 前田 寛美 | 開講年次 | 単位・時間 | |
|---------|--|-------------|-------|-------|----------|---|--|
| | 所属 | | 専任教員 | | | | |
| | 実務経験 | | 臨床看護師 | | | | |
| 科目のねらい | 『看護学へようこそ』は、全ての看護学の入り口である。つまり、「看護とは何か」「看護師は何をする人なのか」を考え探求し、看護の位置付け、専門性を理解するとともに、これから学ぶ各専門看護学への礎になることを認識する。 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 知識・技術 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念の変遷を説明できる。 2. 看護技術を学ぶことの意義と重要性を理解し、看護における「安全・安楽・自立」について説明できる。 3. 健康の概念の変化を捉え、WHOが提示する健康方策について説明できる。 4. 環境と人間の関係について説明できる。 5. 看護の対象としての「人間」を理解し説明できる。 6. 看護の機能と役割から、看護の専門性を説明できる。 7. 看護職における法的規制と制度を理解し、看護実践における責務を説明できる。 | | | | | | |
| 思考判断・表現 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護が時代と共に発展してきた過程を通して、これから看護師に求められることについて考察し言語化することができる。 2. 看護の概念枠組み(人間・環境・健康・看護)の理解が看護実践に大きく影響することを説明できる。 3. 今なぜ、SDGsが叫ばれているのか、WHOが提示する健康方策から考察できる。 | | | | | | |
| 主体的学習態度 | <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスを活用し、積極的な検索行動がとれる。 2. 検索した情報を熟読し、再構成できる。 3. 主体的に学習したものをポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物をさらに凝集させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。 | | | | | | |
| 科目評価 | 随時試験 | ①ポートフォリオの提出 | ◎ | 30% | | | |
| | | ②課題レポートの提出 | ★ | 40% | | | |
| | | ③小テスト | ※ | 30% | | | |
| | | | | | 合計 | 100% | |
| テキスト | ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 (メディカ出版) | | | | | | |
| 参考文献 | 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 (日本看護協会出版社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版社) ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 (メディカ出版) ロイ適応看護理論の理解と実践 (医学書院) 系統看護学講座 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院) 新体系 基礎分野 心理学 (メヂカルフレンド) ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 ②医療安全 (メディカ出版) 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 (医学書院) 私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法 (日本看護協会出版社) | | | | | | |
| 回数 | 教育内容 | 教育方法 | | | 講師 | 関連科目 | 留意事項 |
| | | 講義 | 演習 | その他 | | | |
| 1 | プロローグ ようこそ！看護の世界へ 今看護師に求められていること | ○ | ○ | | 前田 寛美 | 心理学 発達心理学 医療現場のコミュニケーション 健康教育 公衆衛生 看護理論の基礎 看護過程 医療安全 国際看護 看護マネジメント | ★1 課題レポート(提出) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①看護学概論の序章を読み、自分が考える看護と比較し、今改めて思うこと ☆事前検索 「2003年新たな看護の在り方に関する検討報告書」 |
| 2 | 1. 技術概念から見た看護 2. 看護技術の原則：安全・安楽・自立 | ○ | ○ | | | ☆1 事前検索 用語の意味を調べておく 1) ADL, IADL 2) アドボカシー、アドボケート | |
| 3 | 看護の概念の変遷 1) ナイチンゲール以前の看護 2) ナイチンゲールの功績 3) ナイチンゲール以降の看護の発展 | ○ | ○ | | | ★2 課題レポート(提出) ナイチンゲールは何をしたのか ☆2 事前検索 1) ジュネーブ条約と国際赤十字 2) ブラウンレポート 3) (WHO) 看護にあたる者の任務について | |
| 4 | 日本の看護の変遷 1) 明治以前の概要 2) 明治以降の看護職の成立と制度 (1) 保健師助産師看護師法 (2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 | ○ | ○ | | | ★3 課題レポート(提出) 飛鳥時代～江戸時代までの医療・看護の変遷 日本と欧米の比較 | |
| 5 | (3) 看護職の資格と制度 | ○ | ○ | | | ☆3 事前に概要を調べ要点をまとめる 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 | |
| 6 | 3) 看護職者の継続看護とキャリア開発 (1) 看護職の専門分化 認定看護師、専門看護師 | ○ | ○ | | | ※-1 小テスト(範囲)「日本の看護の変遷」(2)、(3) | |
| 7 | 1. 看護の概念枠組み 人間・環境・健康・看護 2. 環境 1) 環境の概念 2) 環境と人間の関係 | ○ | | | | | |
| 8 | 健康 1) 健康の多様な特徴と健康の定義 2) 健康現象の捉え方 (1) 5つの予防 (2) 健康の判断 (3) 統計から見える健康 (4) 健康寿命 | ○ | ○ | | | ☆4 事前に検索し概要をまとめておく 1) 世界人権宣言、社会権規約、国際人権A規約 2) WHO 3) 日本国憲法第25条 4) 健康日本21 | |
| 9 | (4) 健康寿命 | ○ | ○ | | | | |
| 10 | 3) WHOの健康方策 PHCとHPの概念とSDGsの関係 4) 日本における健康方策：健康日本21 | ○ | ○ | | | ★4 課題レポート(提出) (テーマは、講義終了後に掲示によりお知らせします。) ※-2 小テスト(範囲)「健康」1)～4) | |
| 11 | 看護の対象 1) 身体的側面から見た「人間」 (1) ホメオスタシス (2) 成長発達の特徴 (順序性・連続性・臨界期) 2) 心理的側面から見た「人間」 (1) マズローの欲求階層 (2) ストレスとコーピング (3) 危機理論 フィンク、ジョンズ、コーン、岩坪 キューブラー・ロス | ○ | ○ | | | ☆5 事前検索 1) エリクソン、ハヴィーガースト、レビンソンの発達理論について調べる 2) 「防衛機制」について調べる 3) ロイ適応看護理論の理解と実践(医学書院)のP24(役割機能様式の概要)、P107～P108(個人の役割機能様式)を読み、要約しておく | |
| 12 | 3) 社会的側面から見た「人間」 役割理論 4) 健康障害に伴う患者心理の特徴 | ○ | ○ | | | ※-3 小テスト(範囲)「看護の対象」1)～4) | |
| 13 | 看護 1) 看護の目的 | ○ | | | | | |
| 14 | 2) 看護の方法：看護過程 3) 看護の4つの機能 | ○ | | | | | |
| 15 | まとめ | ○ | | | | ◎講義終了後ポートフォリオを提出(最終講義から7日後迄に) ①☆と★に対する受講前後の学習状況 ②小テストの見直し ③その他主体的に学習を深めるために利用した資料など | |
| 備考 | 臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。 | | | | | | |